

令和7年度 夏期企画展

高野山麓 山里のしごと

高野山周辺地域のくらし



2025
7/12_土 → 9/7_日

高野山大塔鈴（当館蔵）
高野山絵葉書（当館蔵）
高野山案内新絵図（当館蔵）

- 開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）
 - 休館日：毎週月曜日（7/21_{月祝}・8/11_{月祝}は開館、翌々休館）
 - 入館料：一般200円（170円）／大学生100円（80円）
（ ）内は有料入館者20名以上の団体料金
- ※高校生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料（要証明書）

和歌山県立紀伊風土記の丘
和歌山市岩橋1411 TEL 073-471-6123



第1章 高野山・歴史と民俗

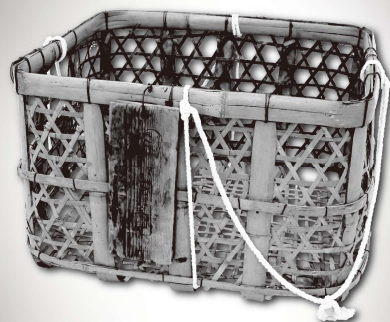
第2章 高野山麓・山里のしごと

第3章 高野山麓・山里のいのり

高野山は、弘仁七年（八一六）に弘法大師・空海が嵯峨天皇から寺地として下賜されたことによって開かれた真言宗の一大拠点にして寺院が立ち並ぶ宗教都市です。江戸時代の文献には高野山の宗教活動や僧侶の生活を支えるために様々な職人や商人たちが山上に店を構えていたことが記されており、いわゆる門前町を形成していました。明治五年（一八七二）の女人禁制廃止に伴い、段階的に僧侶以外の住民が増加し、山上にクラス人々の生活を維持していくためにも多くの職種がますます必要となっていました。

その一方で寺院を中心とした聖地であり、宗教都市でもあった高野山は農産物や木材などが生産できないことから山上にくらす人々を養うための自給が非常に困難な土地でした。このような山上のくらしを支えてきたのが高野山周辺に位置する山麓の集落です。これらの集落では、山間地域で生活するための用具のほか、高野山の寺院に供給するためのモノ作りに用いられた道具が今も残されています。

本企画展では今まで扱われることが少なかった高野山周辺の集落に息づいてきた仕事や生活、信仰に関する民俗文化財を中心に高野山を支えてきた集落のくらしについて紹介します。



雑事かご（中嶋大師講蔵）



葛城山の凍豆腐製造用具（県指定有形民俗文化財 / 個人蔵）



高野町杖ヶ藪位牌製作用具（当館蔵）



六斎念仏講資料（かつらぎ町指定有形民俗文化財 / 延命寺蔵）



町石土鈴（当館蔵）

関連イベント 展示講座② 8/24 日 13:30~15:30

対象 小学生以上

定員 30名

参加費 資料館入館料+資料代 100円

受付開始日時 8/8 日 13:00 ~ ※定員になり次第終了。

申込み方法

- ・電話で申込む。(TEL 073-471-6123)
- ・紀伊風土記の丘資料館受付で直接申込む。
- ・ホームページから申込む。

※ 当館ホームページ【近日開催イベント】より応募フォームにて申込みください。

※ 応募フォームのリンクは【受付開始日時】以降に表示されます。



↑申込みはこちらから↑



高野山周辺地域の守札（当館蔵）